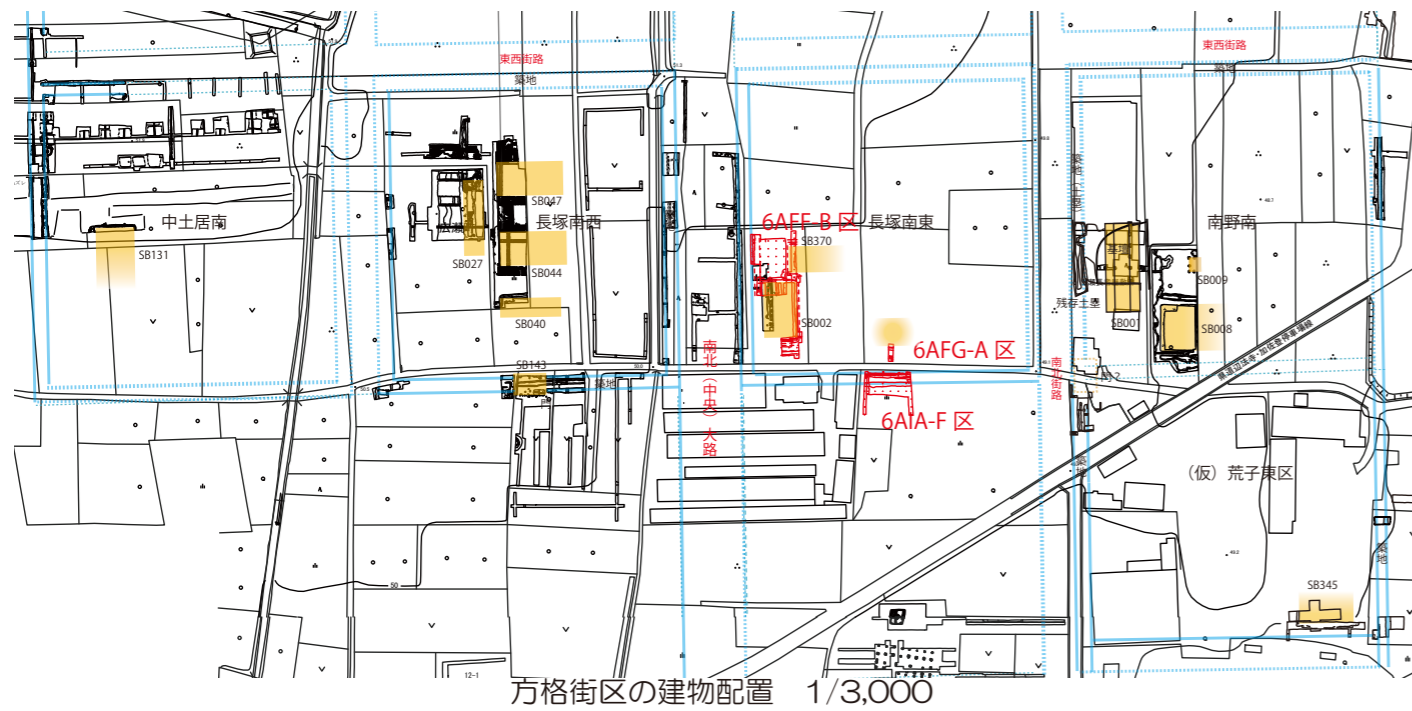


伊勢国府跡（長者屋敷遺跡） 第40次 発掘調査現地公開資料

令和2年11月14日（土）
鈴鹿市文化スポーツ部文化財課



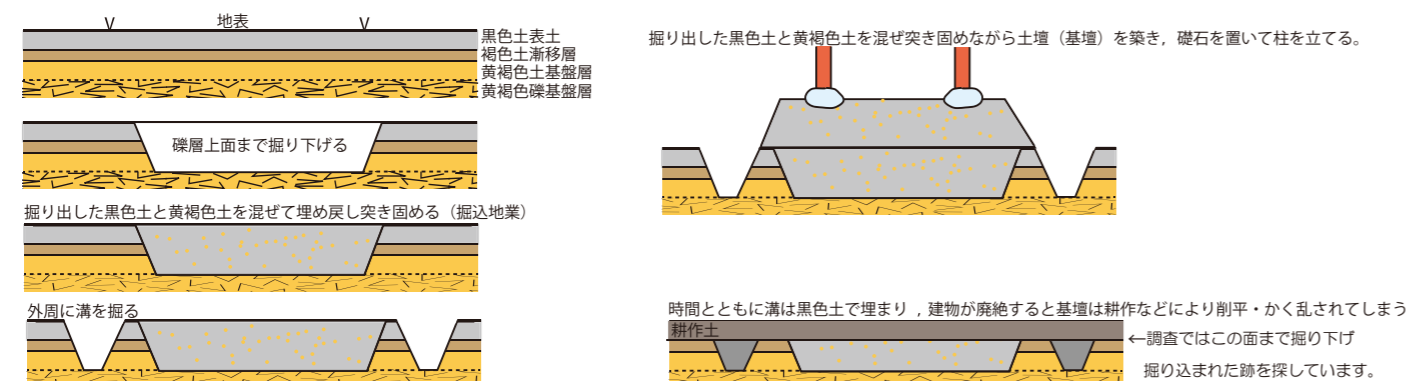
方格街区の建物配置 1/3,000

調査の結果、まず西辺・南辺の築地塀 SA371・SA372 について基底と側溝が確認できました。南辺では、区画の中央にあたる場所で調査を行いました。門の基壇らしき遺構や側溝の途切れは確認できず、正門的な門は設けられていない可能性ができました。

築地塀で区画された内部では礎石建ちで瓦葺の建物 SB002 と SB370 の 2 棟を確認しました。2 棟とも基壇・礎石など地上部分は失われていますが、建物の基壇を構築する際の掘込地業（地盤改良）や外周溝などの地下の構造は良好に残っていました。SB002 は東西 14 m、南北 23 m の南北に長い建物で、西辺の築地塀から約 2m とぴったりくっつけるように建てられています。SB370 は南北 13 m あまりの東西に長い建物とみられ、SB002 とは軒を接するように近接して建てられています。さらに、6AGF-A 区でも似たような遺構が見られ、ここにも建物がある可能性が高いです。

これまで 3 つの区画内において複数の建物が確認されていますが、それぞれの区画で建物配置や門の有無などが異なります。各区画が異なる役割を持ち、それに応じた独自の配置を持っていたようです。

一般的な国府では政庁以外の施設、たとえば国司の館（宿舎）や曹司（実務を行う役所）は掘立柱建物が一般的で、これほどまでに瓦葺建物が建ち並び、これが特殊で、大国伊勢の国府としての威厳を示そうとしているようです。整然とした方格街区と併せ、その機能の解明が今後の課題といえます。

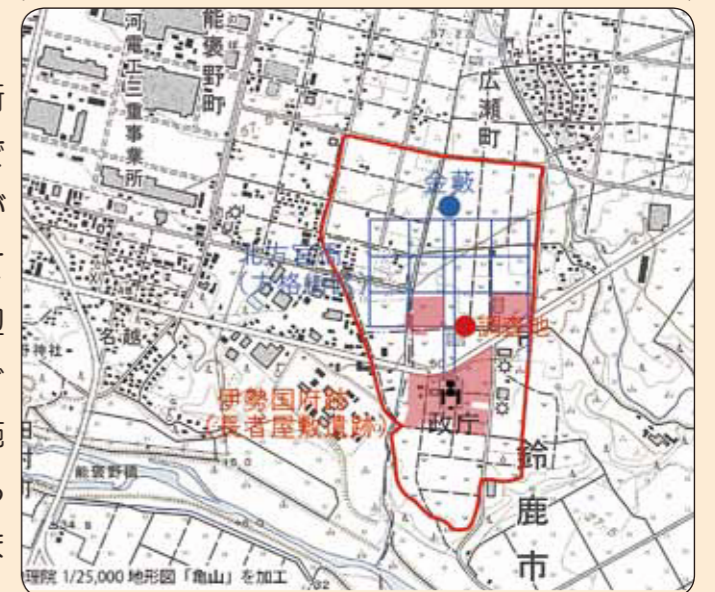


遺構のできるまで

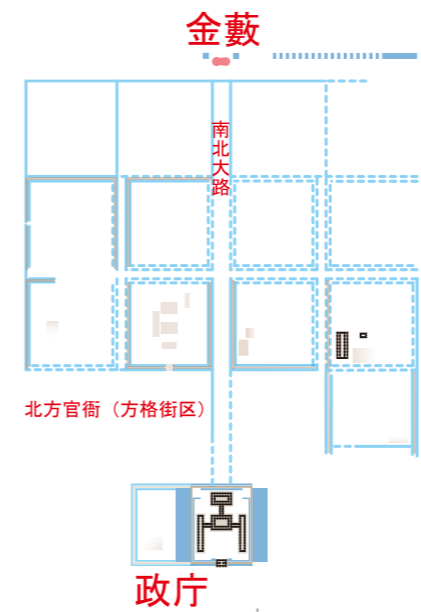
長者屋敷遺跡は鈴鹿市広瀬町・西富田町に位置し、一部は亀山市域に及んでいます。範囲は南北 0.8 km × 東西 0.6 km と広大で、各所に瓦の散布が見られ、土罫・土壇状の高まりが残っていたことから矢卸長者の伝説が伝えられています。

遺跡の性格と範囲を確認するための調査は平成 4 年からスタートし、28 年目を迎えています。平成 5 年には字矢下で政庁の遺構が確認され、この遺跡が奈良時代の国府跡であると判明しました。平成 14 年には政庁を含めた主要 3 地点約 74,000 m² が国史跡「伊勢国府跡」として指定され、平成 29 年には追加指定が行われました。

伊勢国府の特色として、政庁の北側にある官衙（役所）域が平城京の条坊を思わせる、道路で整然と区画された方格街区となっていることがあげられ、他の国府には類を見ない構造として注目されています。今回は方格街区のうち南辺に位置し、街区の中央を南北に走る大路のすぐ東にあたる「長塚南東」区について調査を実施しました。調査期間は令和 2 年 8 月 31 日から 11 月 19 日（予定）で、約 570 m² を調査しました。



伊勢国府跡（長者屋敷遺跡）位置図 1/25,000

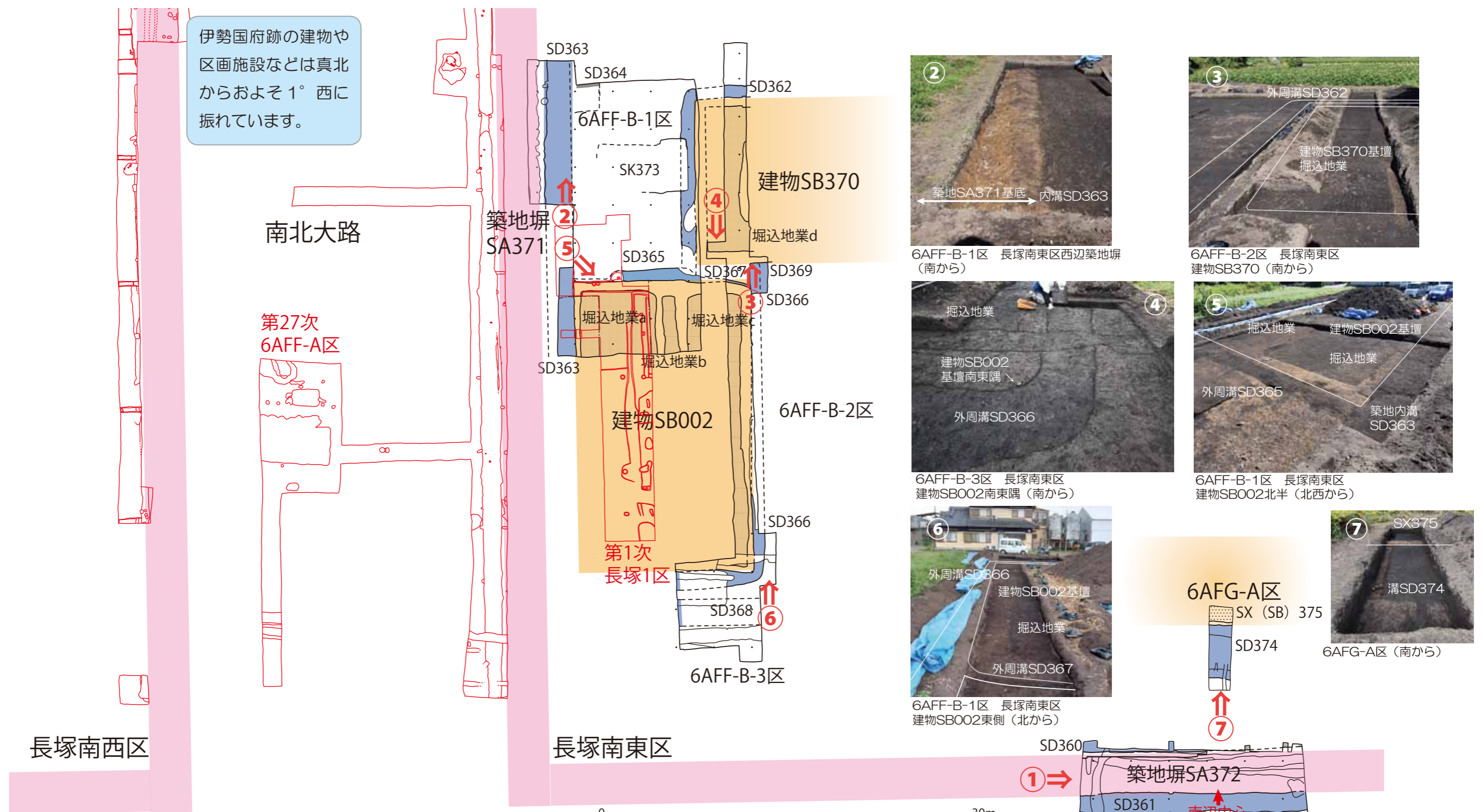


伊勢国府政庁と北方官衙（方格街区）との関係 1/10,000



6AIA-F 区長塚南東区南辺築地塀 SA372(南から)

伊勢国府跡の建物や区画施設などは真北からおよそ1°西に振れています。



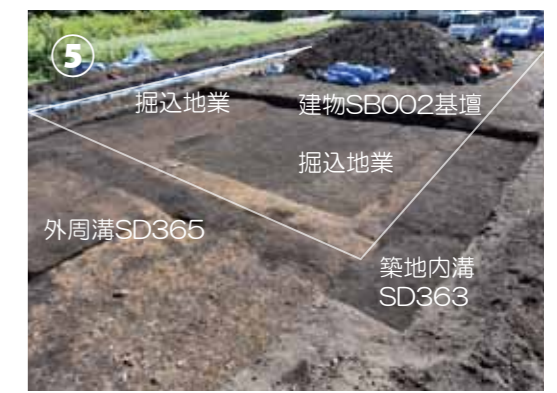
6AFF-B-1区 長塚南東区西辺築地塀 (南から)



6AFF-B-2区 長塚南東区 建物SB370 (南から)



6AFF-B-3区 長塚南東区 建物SB002南東隅 (南から)



6AFF-B-1区 長塚南東区 建物SB002北半 (北西から)



6AFF-B-1区 長塚南東区 建物SB002東側 (北から)



6AFG-A区 (南から)



重圏文軒丸瓦



2枚重ねで出土した平瓦

出土遺物としては、重圏文軒丸瓦が数点出土した以外は平瓦・丸瓦がほとんどです。伊勢国府跡ではよくみられる文字押印瓦は今のところ確認されていません。小破片ばかりですが、土師器甕・坏や須恵器坏など土器は各所から出土しています。

長塚南東区の南辺の中心にあたりますが門らしい遺構は見つかりません。